

# meiji 駿台倶楽部会報

明治大学野球部OB会ニュース

発行 駿台倶楽部  
 会長 吉川 芳登  
 府中市若松町5-6-1  
 明治大学野球部合宿所内  
 電話番号(042)313-4134  
 F A X番号(042)364-5605

## 19年春以来6シーズンぶり

# 完全V



優勝を決め閉会式後に記念撮影する明大ナイン

### 田中監督5シーズン目で初優勝

5シーズンぶり  
勝ち点制が復活

田中武宏監督が宙に舞った。令和4年、春季リーグ戦は5シーズンぶりに勝ち点制が復活。明大は粘り強い戦いで10勝3敗2分の勝ち点5、完全優勝で19年春以来6シーズンぶりに天皇賜杯を獲得した。

開幕前はコロナ禍で全体練習開始が遅れ、村松開人主将が右ヒザ手術の影響で出場が出来ない状況。投手陣は経験が少なく不安材料の多い中、一戦ごとにチーム力を発揮。村田賢一、村田賢一の3年生右腕コンビが柱に成長。打線も宗山塁遊撃手(2年)が首位打者を獲得、上田希由翔一塁手(3年)が15打点と引張った。ベストナインには村田、蓑尾海斗捕手(4年)、上田、山田陸人三塁手(4年)、宗山の5人が選ばれた。田中監督は善波達也前監督から引き継いで5シーズン目で初優勝を飾った。

なお第71回全日本大学野球選手権は準々決勝で佛教大にタイブレークの末に敗れ、19年以來の日本一達成はならなかった。

# 文句なしの「MVP」

この2人なくして優勝は語れない。田中監督をして「MVP」と言わしめた蒔田、村田賢一の3年生右腕コンビ。蒔田が第1戦、村田が第2戦を任せられ2人で9勝。2本柱に成長した裏には昨秋の悔しさと、指揮官の言葉があった。

**1球の怖さ知り成長**

蒔田には忘れられないシーンがある。昨秋の早大1回戦。2点リードで迎えた9回。抑えに起用された蒔田は早大打線にかまき逆転負けを喫した。一挙4失点。1球の怖さ、自分の不甲斐なさを痛感した。自分のせいではなかった。あの悔しさが今季につながる。やるしかない。そんな思いでシーズン準備を進めていた3月上旬。ブルペンに田中監督がやってきた。

蒔田に村田、左腕・石原の3年生3人。田中監督は3人を前にこう語りかけた。「今シーズンはお前たちと心中する覚悟でいる。頼むぞ。胸に響く言葉だった。よしやってやる。僕が投げないと試合は始まらないんだから」と覚悟を決めた。

第1戦の先発。チームの命運を握る大事な役目。「緊張する」というより楽しく投げられたという。1シーズンを乗り切る体力に不安はあったが、気持ちでマウンドに立った。法大3回

戦ではリーグ初完封もマあり。優勝を決めた立大3回戦では延長10回を完封、葦尾のサヨナラ犠牲打を呼び込んだ。15試合中9試合に登板、4勝1敗防率1.90(4位)は立派。担当記者投票のベストナインにも初めて選出された。大黒柱に成長した蒔田にも弱点がある。それは登板中、ふっと気が抜けることがあるという。「なんかボールと手やう感じなんです。集中力が切れないようにしているんですが」と苦笑い。そんなときは女房役の葦尾が察知しマウンドに駆けつけて「しっかりしろ」とゲキを飛ばすという。葦尾さんには助けてもらっています」と頭を下げる。秋に向けてはMAXを2リブアップして150キロにチェンジアップ、スプリットと投球の幅を広げることが目標。秋もエースとしてチームのマウンドを守るつもりだ。

明大2本柱の蒔田(左)と村田



切れないようにしているんですが」と苦笑い。そんなときは女房役の葦尾が察知しマウンドに駆けつけて「しっかりしろ」とゲキを飛ばすという。葦尾さんには助けてもらっています」と頭を下げる。秋に向けてはMAXを2リブアップして150キロにチェンジアップ、スプリットと投球の幅を広げることが目標。秋もエースとしてチームのマウンドを守るつもりだ。

**1年秋に2試合登板するも右ヒジを手術し本格的なデビューは昨年秋。慶大2回戦では1点リードの9回、同点リブを浴び勝利を逃す悔しい思いもした。蒔田同様この思いが今季につながっている。リードする葦尾は「村田は手間がかからな。少ないアドバンスでいいから」と信頼度が高い。優勝を争う慶大戦では初戦を落とし負ければV脱落的の2回戦で7回4安打完封。「今季の僕のベストピッチです」と胸を張る。3回戦も救援し勝利に貢献。立大2回戦ではリーグ戦初完投と優勝に手をかけた。**

初の経験となったフルシーズン。後半、疲れが残ったが寮に戻ると体作りをやり直す。「今やっているトレーニングが正しいのか、見直しながらやっています」と手抜きはない。部屋も几帳面に片付けていて「同じ生活、お風呂の時間も同じ。部屋を整理整頓しておかないと落ち着かない」と笑う。秋に向けては「スライダースとシンカーを磨いて、どちらかを本場の武器にしたい」とやる気は分かっていて、そして「いずれは(エース背番号の)11番を付けたいです」と意欲を見せた。



投手陣成長の立役者・葦尾(右)

## 蒔田15戦計214球受け切った!!

明大投手陣が15試合で投じた球数2142球。この1球1球にサインを出し、本塁を守ったのが副将の葦尾だ。経験値の少ない投手たちを引っ張り、自らは優勝を決めたサヨナラ犠牲打。そこには、やり尽くした男の顔があった。

蒔田にとって忘れられない1球がある。昨秋の早大戦。2点リードの9回、連打を浴び逆転負けを喫した。「安易に変化球を要求してしまっ。今井さん(現トヨタ自動車)にカットボールを要求して右中間に打たれた。だから今季は1球、あとワンアウトにこだわり投手陣と話し合ってきました」と悔しさをバネにサインを出した。内角を大胆に攻め、ストレートを多く使う。気を抜くクセのある蒔田にはマウンドでカツを入れた。終盤はベンチの田中監督から投手交代を任せられるまでに成長した。一番苦しかったのは「慶応1回戦です。完敗して慶応には勝てないのか」とちょっと弱気になったという。その夜のバッテリー・ミーティングで「後手に回ったらダメ。強気でいこう」と話合い連勝につなげた。サヨナラ打は野球人生で初めて。ベンチの選手が蒔田に突進したのも、苦戦を知っているからこそ。体中、ファウルを受けてアザだらけ。これもこの男の勲章だ。

# 蒔田3年生右腕コンビで9勝村田

# 打線不振で日本一ならず

▽2回戦 (神戸)  
 神奈川大 (神奈川大学) 000 | 000 | 0  
 000 | 001 | 20X | 03  
 明大 (東京大学) 000 | 000 | 002 | 0 | 2  
 010 | 100 | 000 | 1X | 3  
 明大 (京滋大学) 010 | 100 | 000 | 1X | 3

▽準々決勝 (神戸)  
 明大 (東京大学) 000 | 000 | 002 | 0 | 2  
 010 | 100 | 000 | 1X | 3  
 明大 (京滋大学) 010 | 100 | 000 | 1X | 3

**大学選手権ベスト8**

# 佛教大に延長サヨナラ負け

**9回に意地の同点も**

第71回全日本大学野球選手権大会は6月6日に開幕。明大は2回戦からの登場で神奈川大と対戦した。先発した村田が安定した投球で8回まで完封。9回は左腕・千葉が救援し打っては6回に村松の内野ゴロで先制、7回には宗山の2点適時打で加点。3-0と快勝しベスト8に進出した。

準々決勝では19年決勝で対戦した佛教大が相手。先発蒔田が打球を右手に受け降板。2番手にはリーグ戦登板のない1年生左腕・久野がマウンドに上がり懸命の力投を続けた。打線は佛教大の山本投手に抑えられ終盤まで0-2と敗色濃厚を展開した。しかし9回、宗山の二塁打を足場に2死から葦尾の中間適時打。代走・飯森の二盗の後、途中出場の西山が左中間へ同点の二塁打。試合を振り出しに戻した。

延長10回は無死二、三塁のタイブレークに突入。このタイブレーク、エース柳(中井)を擁した16年では関西国際大に取られている。今回こそと臨んだが、直井のバント失敗が響いて無得点。その裏、佛教大のバントを救援・千葉が一塁に悪送球してサヨナラ負けを喫した。

2試合を通し打線の不振が響いた。4番上田が8打数無安打、5番山田陸も7打数1安打と沈黙。粘り強い戦いは出来たものの19年以降の日本一達成はならなかった。

回、宗山の二塁打を足場に2死から葦尾の中間適時打。代走・飯森の二盗の後、途中出場の西山が左中間へ同点の二塁打。試合を振り出しに戻した。

延長10回は無死二、三塁のタイブレークに突入。このタイブレーク、エース柳(中井)を擁した16年では関西国際大に取られている。今回こそと臨んだが、直井のバント失敗が響いて無得点。その裏、佛教大のバントを救援・千葉が一塁に悪送球してサヨナラ負けを喫した。

2試合を通し打線の不振が響いた。4番上田が8打数無安打、5番山田陸も7打数1安打と沈黙。粘り強い戦いは出来たものの19年以降の日本一達成はならなかった。



日本一届かず...佛教大に敗れあいさつする明大ナイン

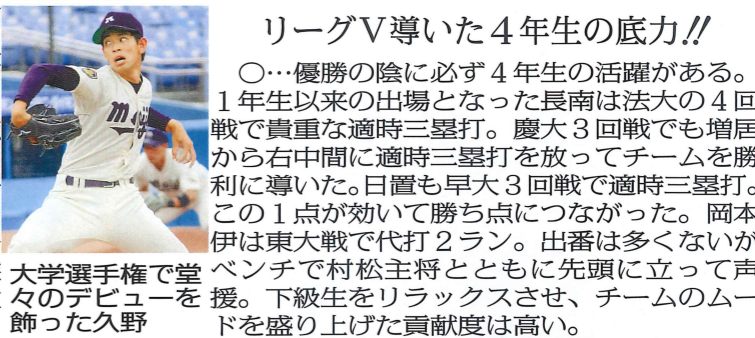
**1年生・久野緊急登板**

〇...リーグ戦未登板ながら、先に全国デビューを果たしたのが1年生左腕・久野。準々決勝、先発の蒔田が2回2死で打球を右手に受け降板。緊急登板となったが落ち着いたマウンドさばきで1失点はしたものの5回まで力投した。

フレッシュトーナメントの早大戦で好投、視察した田中監督が選手権のベンチ入りを決めた期待の左腕。178cmの長身から投げ下ろすストレートは140km/hを記録し変化球も及第点。夏に鍛えて秋のリーグ戦デビューを狙っている。

**リーグV導いた4年生の底力!!**

〇...優勝の陰に必ず4年生の活躍がある。1年生以来の出場となった長南は法大の4回戦で貴重な適時三塁打。慶大3回戦でも増屋から右中間に適時三塁打を放ってチームを勝利に導いた。日置も早大3回戦で適時三塁打。この1点が効いて勝ち点につながった。岡本伊は東大戦で代打2ラン。出番は多くないがベンチで村松主将とともに先頭に立って声援。下級生をリラックスさせ、チームのムードを盛り上げた貢献度は高い。



大学選手権で堂々のデビューを飾った久野

**飯森 失敗恐れず盗塁成功**

〇:代走としてリーグ戦デビューを果たしたのが178cmの小兵・飯森外野手。50秒の俊足を生かし盗塁を決める飯森は「足踏みを生かして盗塁を決める」と自信を語った。盗塁失敗なら即試合終了という緊迫した場面。「やはり緊張して足が震えました。でも行くしかないと思って走りまわりました」と相手バッテリーの警戒網をかいくぐり見事に二盗。西山の同点二塁打を引き出した。福王コーチは「あの足は大きな武器。飲み込みも早い。秋はまたメンで出ているかもしれない。よく大きな期待を寄せていた。」

**高山 好救援連発でV貢献**

〇:新学院の先輩・入江(DENA)に似た投球フォームから150km/hのストレートに緩いカーブを駆使し、大事な試合に見事な救援をみせたのが高山。特に法大2回戦、8回から登板すると延長12回までの5イニングを3安打無失点。引き分けに持ち込み、3、4回戦の連勝につなげた。

〇:1年生で唯一開幕スタメンを勝ち取った瀨。6番右翼で出場すると初打席で左翼へデビュー弾の快挙を達成し、天理の主砲として入学した。

リーグ戦初打席で本塁打を放った瀨。期待も大きかった。試合後は田中監督も「いずれはウチの主軸を打ってもらわないと困る」というほどの素材。だが、後半は他校に研究され変化球攻めを受けスタメンを外れることもあった。「相手の配球に対応できまじんでした。まず技術を上げ、シーズンを通り切れる体力をつける。秋は規定打席に達したいです」と意欲満々。打率・267を残し秋への成長期待大だ。



救援でチームを救った高山(2)

就任初Vで胴上げされる田中監督



全員野球でつかんだ初V

昨秋に高い授業料... 全員野球でつかんだ初V... 打線は宗山と上田です... 投手陣は藤江が故障で... 村松主将は右ひざ手術... 宗山監督は「お前たちと心中」...

故障者続出乗り越え

9回2死から追いついた... 故障者続出乗り越え... 村松主将は右ひざ手術... 宗山監督は「お前たちと心中」...

田中監督 覚悟決めた

就任初のリーグ優勝を飾った田中武宏監督... 覚悟決めた... 宗山監督は「お前たちと心中」...

就任後初優勝し、胴上げされる山本部長... 1年生の久野、毛... 村松もベンチで指示や声を... 宗山監督は「お前たちと心中」...



村松主将「みんなに感謝」右膝半月板損傷で裏方徹し

背番号「10」を背負った村松にとって、うれしさと悔しさが混じったシーズンだった... 村松主将「みんなに感謝」...



引っ張ってくれたのでありがたかった... 村松主将「みんなに感謝」... 宗山監督は「お前たちと心中」...

東京六大学2022年春季L Play Back



春季リーグ戦は15試合の長丁場となった。法大、慶大には初戦を落としながら勝ち点を挙げるなど、3回戦以降は5戦全勝と明大らしい粘り強い戦いとなった。5校の対戦を振り返ってみた。

Table with columns for date, team, score, and game details. Includes results for various matches between Meiji, Tohoku, and other teams.

(上から) 救援で初勝利を挙げた千葉 法大4回戦で貴重な適時三塁打を放った長南 立大1回戦で9回2死から同点打を放った西山

ベストナイン5人選出!! 村松、宗山、山田陸、上田、藤江

Table showing batting statistics for the top 5 players: Murakami, Murakami, Yamamoto, Ueda, and Fujiwara.

春季リーグを制した明大から5人がベストナインに選ばれた。満票は13。選出されたのは、宗山監督(3年)の投手、藤江(3年)の捕手、山田陸(4年)の遊撃手、山田陸(4年)の二塁手、上田(4年)の三塁手、藤江(4年)の外野手。

Table showing pitching statistics for the top 5 pitchers: Murakami, Murakami, Yamamoto, Ueda, and Fujiwara.

11回。打率・3.68、1本、15打点。打線の中心。素質が15打点は立派。ないが5打点は立派。△三塁手/山田陸(4年) 11票(2回) △二塁手/山田陸(4年) 11票(2回) △遊撃手/宗山(2年) 11票(2回) △捕手/藤江(3年) 11票(2回) △外野手/藤江(4年) 11票(2回)

# 歓喜のVパレード&報告会



お茶の水の本校からパレードするライン

### 関係者のみの行進

6季ぶり、41回目の優勝を果たした野球部の優勝パレード&優勝報告会が6月29日、御茶の水の本校で行われた。チャリダー15人が持つ「祝☆優勝 やっぱり明治がNO.1」の横断幕を先頭に天皇賜杯、優勝

旗など村松主将、菅尾山田陸副主将ら4年生が前列に陣取り行進がスタート。例年なら関係者の後一般の人

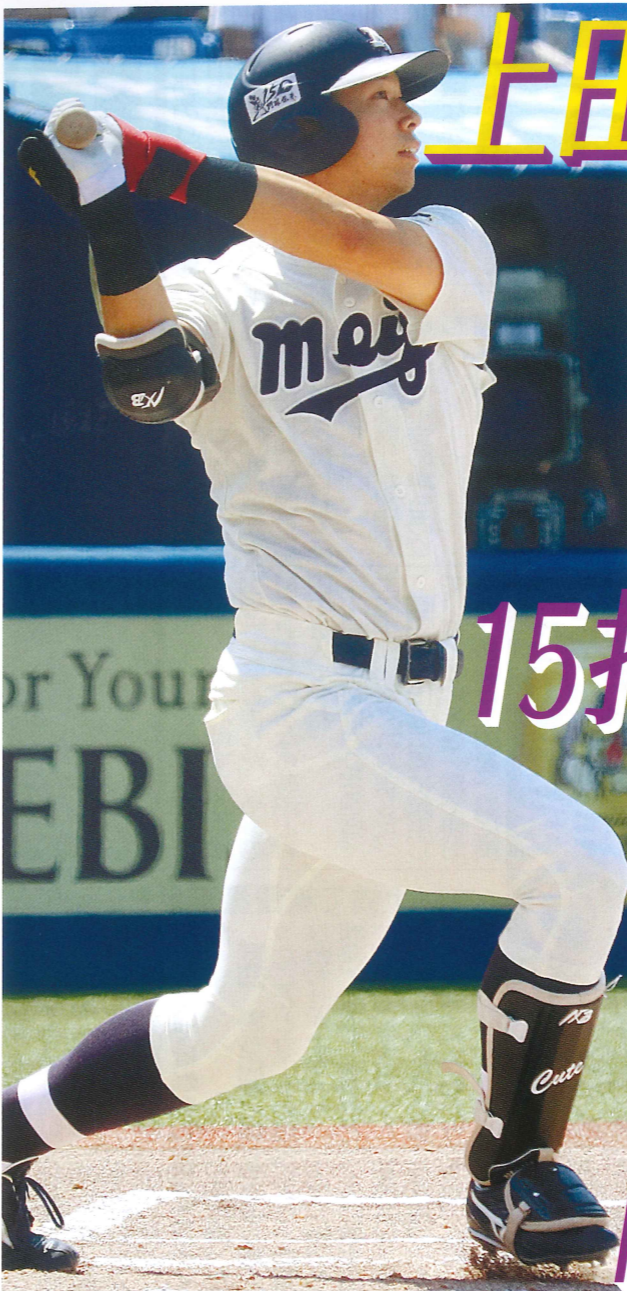
### 例年は大学orホテルも コロナ禍のため寮開催

7月1日、府中市の島岡寮で駿台倶楽部主催の祝勝会小宴が行われた。例年なら大学かホテルで多くのOB、関係者を招いて行われるが、コロナ禍のため寮での開催となった。吉川芳登会長、高田繁副会長をはじめ土井淳前会長らOB幹部が駆けつけ田中監督、山本部長に選手らを祝福。ピュッフェスタイルの料理が並び選手たちは大喜び。6月29日の大学報告会で田中監督が15試合の激闘を振り返った際「終盤、相当痩せてしまったガリガリ君が何人かいました」との話聞いた吉川会長は「きょうはいっぱい食べてガリガリ君にならないように」と挨拶して笑顔を誘うなど、約2時間楽しいひとときを過ごした。

### 田中監督誓う「体力と気力をこの夏に鍛えていききたい」

「アカデミーコンプレックス」はアカデミーホールで報告会。田中武宏監督は感謝の言葉を述べたあと「日本一を目指した選手たちが苦手をタイプレックで鍛えたい」と話した。村松開人主将も「大学選手権で敗れ日本一が獲れず力不足を痛感した。課題も出たので、それを克服して秋は日本一を獲得したい」と春秋連朝、神宮大会制覇を誓って大きな拍手を浴びていた。

# 上田主砲の役目



目標の4割満20本5届かず チームの主砲として15打点を挙げ、優勝に貢献した上田から出てくる言葉は反省ばかりだった。「全然ダメでした。シーズン目標は4割、20打点、5本塁打でしたから」と下回った数字に納得していなかった。開幕当初は村松主将の欠場に伴って慣れない二塁手を務めた。メジャー流に2番打者として打席に入った。コンスタントに打っているのに「スイングが小さくなってしまっていて、ボールを撫でる感じになっていて、空き週で気がついて修正してからは良かった感じですが」と苦しかったシーズン振り返った。上田にとって特に忘れられないのが法大2回戦。初戦を5安打1点に抑えられ敗れたのを受け、鈴木文雄コーチからバットを短く持って臨むよう提案があったのだ。「僕と宗山は短く持たなくていい」と

# 15打点けん引も

### 「もっと増やしたい」

この試合、9回に2死から上田の二塁打、山田陸の適時打で追いつき引き分けた。この一打も悔しさの裏返し。気持ちで追いつき、その後は連勝、慶大、立大につながってリーグVを果たした。秋に向けては「前の宗山が塁に出てくれるので、チャンスに強い打撃をしたい。打点をもっと増やしたいです」と強い決意を口にす。上田といえは長打。大学日本代表にも選ばれ日の丸をつけて戦った経験も大きい。連覇を狙うチームにとって上田の活躍が結果に直結する。

# 全然ダメ

# 山田陸率3割も「不甲斐ない」



### 秋に日本一目指し チーム見直したい

「常に走者が得点圏にいたら還すバットینگをしたかったんですが全然でした」と反省する。優勝に関しては「全員があきらめず戦えた結果」と言うが、日本一を達成できず「もう1回チームを見直して秋に向かいたい」と副主将らしく秋の日本一に目を向けていた。

### 「MEIJI CUP」開催

《関西支部》3月19日から3日間、第9回「夢」兵庫県中野硬式野球親善交流大会「MEIJI CUP」を姫路WINK球場ほかで開催。28チーム、570選手が参加した。今回は江柄子裕樹氏（元巨人）ら多くの明大OBが参加、ミスノ社の協力で「MEIJI」のロゴ入りボールを使用するなど出場選手たちも大喜びで熱戦を展開した。

### 新人戦準備 ユーティリティは早慶戦終了翌日から開幕。A組の明大は早大、立大と対戦した。早大戦は久野（1年）報徳学園（6）が先発。6回を無失点に抑えたが救援の松島（2年）中大中が、が逆転3ランを浴び敗れた。立大戦は池田（2年）履正社の適時打で先制、6回は横山（同）作新学院、水谷（同）花巻東の三輪（1年）常総学院の適時打でダメを押して投手のリレーで逃げ切った。3チーム1勝1敗で並んだが総失点の少ない明大がA組1位となり、B組1位の法大と決勝に臨んだ。法大戦は浅利（2年）興國が6失点と乱調。7回に5点を返して反撃したが及ばず準優勝に終わった。初めて神宮のマウンドを踏んだ久野、2戦目の毛利（1年）福大慶や菱川（同）花巻東ら秋に楽しみ投手が現れ競争が激化しそうだ。

### 2022年度入部者

氏名	身長	体重	投打	出身校
井上 仁英	185	83	左投	院附園東大
上川 大輔	177	73	右投	中野市立
大郷 慈怡	173	83	右投	徳大
須藤 大悠	192	90	右投	岡山
久々 一海	186	90	右投	東海
菱川 隆一	174	88	右投	倉敷
毛利 海斗	177	76	左投	東大
小島 大輔	179	87	右投	慶大
中村 圭一	177	85	右投	三浦
木本 圭一	175	78	右投	学芸
島田 大智	174	83	右投	明大
河三 大知	173	84	右投	中野
宮田 泰大	180	84	右投	横大
衛藤 拓	171	71	右投	分大
本輪 匠	163	63	右投	南大
福田 隆	178	78	右投	大宮
三吉 匠	170	77	右投	常大
今井 英	178	83	右投	松大
植瀬 千	179	80	右投	東大
藤野 皓	176	84	右投	明大
千原 光	173	74	右投	明大
八幡 慎	164	70	右投	聖光
遠藤 雄	176	75	右投	本成
石中 健太	168	66	右投	島
野田 朗	165	62	右投	大船
山田 優	176	82	右投	山
山上 里	168	77	右投	明大
加藤 珠	170	70	右投	成大
藤田 豪	163	63	右投	藤
山口 珠	162	80	右投	東大

### 出版 元明大野球部監督

現在千葉黎明野球部監督を務める荒井信久氏（68）が同校創立百周年記念の一環で「野球を愛し、野球に学ぶ」（定価1500円）を上梓した。成東、明大、神戸製鋼と歩み、同校監督、明大監督、バルセロナ五輪コーチ、横浜スカウト部長とアマ&プロを熟知した同氏の野球人生を振り返った一冊。大学時代の教え子でもある川上憲伸氏（元中日）ら関係者のインタビューも豊富に掲載されており、ひと味違った野球人生本になっている。購入希望者は住所、氏名、電話番号、冊数を明記し千葉黎明へFAX043(443)3443まで申し込む（送料別、同校から送料を連絡する）△振り込み先▽千葉銀行八街支店普通10115768。入金を確認次第発送します。

# 宗山首位打者 ・429

立大戦で貴重な本塁打を放った宗山（左）首位打者のブロンズ像を手に笑顔



3シーズンで通算44安打 100安打&高山先輩131安打も視界

## 宗山アラカルト

▽MVP 東京大 学の本塁打投手で87票を獲得してダントツの1位。2位荘司(立)に25.5票差をつけた。

▽好きな球団 家が全員巨人ファンで自然とG党。ただアロ入りする場合は別でしょうねとクール。

▽目標 遊撃手として巨人の坂本勇人選手。打撃は広島・西川龍馬選手。手元まで引きつけて打つ感じがいいんです。

▽好きなタイプ 清楚な感じの女性。女優でいえば清野菜名。

▽人気急上昇 イケメン選手ということで他校のチアたちも注目しているとか。

▽ベストヒット 今季24安打中、法大・篠木から打った右前打。同学年だし、すごくいい投手。彼と対戦するときは特に燃える感じ。今季、篠木から5安打して「カモ」にした。

全15試合、打線を引っ張った宗山遊撃手が打率・429(56打数24安打)で見事初の首位打者に輝いた。左打席から広角に打ち分け本塁打も3本、打点もチーム2位の13を記録した。守っては内野の要・遊撃手として攻守で活躍。昨秋に続く2季連続で満塁(13票)のベストナインを獲得。7月にオランダで行われた国際大会の大学日本代表のメンバーにも選ばれた。

## 開幕から量産

早慶戦、慶大・朝日選手の結果次第では打率2位転落もあった。「最後まで気にしながら見てました」と宗山は首位打者が確定するとホッとした表情を浮かべた。開幕の東大戦からエンジン全開だった。1回戦を4の2で終えると2回

戦は5の4。6打席連続安打もマークし、首位打者への道をスタートさせた。昨秋は打率・378の5位とレギュラー定着で結果を残した。ひと冬超えてさらに成長した姿を印象づけた。

寮に寝泊まりし選手を鍛えている福王昭仁コーチは「宗山はシーズン前はまた自分のスイングが完成してはなかったけど、リーグ戦に入ってから自分のスイングで打てるようになった。打つポイントがいいから詰まったりしても内野と外野の間に落ちたり、ヒットゾーンに飛ばんですよ」と解説した。

その後もヒットを量産。昨秋のリーグ戦終了後「長打が少ない」と感じた宗山はバットを1つ長い85センチ、重さは逆に20センチ軽い870グラムに変更。これが成功し東大戦、立大戦で本塁打をマーク、二塁打も5本と大きく伸びた。

## アイツは天才

安打の内訳を見ても投手から8安打の本塁打2本。早大・原、立大・宮と救援左腕から大事な

## 全員野球で勝ち取った6季ぶりV

〈編集後記〉チームは6季ぶりに優勝、全ページが明るい話題となりました。昨年からの寝食を共にする。猛暑日の中、延々と打撃投手を務める戸塚助監督の姿は感動ものです。田中監督が所用でいなくても2人が目を光らせる。その効果が優勝につながっています。村松主将をケガで欠き、左腕藤江もヒジ痛と開幕前の予想は低くても1試合ごとにチームがまとまったの優勝。私が会報制作担当となって7年目。それまでは柳(中日)森下(広島)から抜き出たエースがいまいましたが今季は全員野球。違ったうれしさがあります。有望な下級生も多そう。秋も明治らしい粘りの野球が見られそうです。(駿台倶楽部広報委員長 落合 紳哉)

紙面編集 齋木駿

「目の前の1打席に集中」は練習するしかない。の歩みは止まらない。場面での一発でチームを勝利に導いた。2人で9勝を挙げた時田、村田の両投手も「宗山と対戦しなくて済むのがありがたすよ」と頼もしい後輩を絶賛する。着実に実績を積み上げていく宗山だが、慢心しないのがいい。「56打数の中で、簡単に打ち取られた場面が何回もありました。まだまだです。もっと粘りたいし、相手が嫌がる打者になりたい。そのためには練習するしかない。」